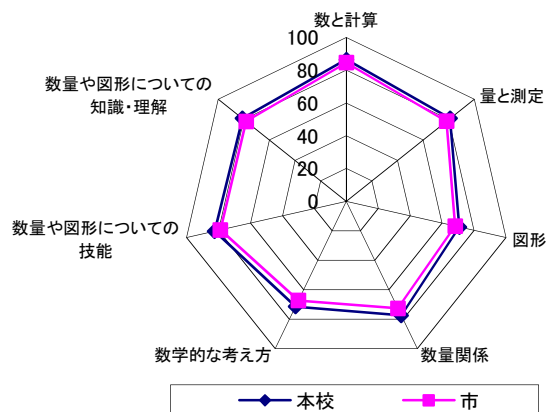


宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	86.5	84.6
	量と測定	81.1	78.3
	図形	70.8	68.2
	数量関係	77.4	72.6
観点別	数学的な考え方	71.4	67.3
	数量や図形についての技能	82.5	78.9
	数量や図形についての知識・理解	81.1	78.2



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、市の平均を1.9%上回っている。特に計算問題に対しては誤答が少なく、その中でも「分数と整数の乗法の計算」に関しては正答率が96.7%と大変良好であった。しかし、「分数と分数の乗法の計算」の市平均を1.1%下回った。	○計算力はおおむね向上しているが、文章問題を正しく読み取れなかったり、分数の計算において約分を忘れるものも見られるので、多くの計算問題に取り組ませることで、さらに正確さを求めていく。計算力はおおむね向上しているため、「順序良く考える力」を養ったりすることにより一層学習内容の習熟を図っていく。
量と測定	○平均正答率は、市の平均を2.8%上回っている。内容別に見ると、特に「速さ・時間・道のりの関係」を正確に理解しており、道のりを求める式を適切に選択することができている。しかし、速さの単位の関係の「秒速・分速・時速」の換算が理解できていない児童が多く、正答率が市の平均を6.4%下回っている。	○市全体を考えた場合、この領域を苦手とする児童が多いと思われる。「速さ」の学習をする際には、「単位量当たり」の問題と深くかかわってくるので、その復習と、数直線や図などを用いて自分で説明する活動を増やしながらいずれも意味をとらえさせていくことで、定着を図っていく。また、「秒速・分速・時速」の換算の練習問題を多く取り入れ、学習内容の習熟を図る。
図形	○平均正答率は、市の平均を2.6%上回っている。特に「円を使う正多角形のかき方」を正しく理解しており、市の平均を8.2%上回っている。しかし円に関する公式、特に「円の半径から円周を求める式」を適切に選択することができず、市の平均を6.1%下回っている。また、「線対称な図形の対応する点」を見つけることが苦手な児童が多く、平均正答率は6割を切っている。	○「円の面積」を求めるための考え方について、学習する際に、「円周」を求めるための考え方との比較も取り入れ、違いを明確にしていく。その際、それぞれについての問題の具体例を示しながら指導する。また「線対称・点対称な図形の対応する点」の見つけ方については、実際に図形を折って求めるなど、体験活動を多く取り入れ、見落としやすい点について確認していくことで学習内容の定着を図っていく。
数量関係	○平均正答率は、市の平均を4.8%上回っている。この領域の問題についてはすべて市の平均を上回っている。特に「比の値」を求める問題においては、正答率が98.3%と大変良好である。しかし、「帯グラフから割合を読み取り、比較量を求める問題」は正しく理解していないために、誤答が多くみられた。	○「帯グラフから割合を読み取り、比較量を求める」学習の際には、数直線や具体物を用いて整理する活動を多く取り入れ、百分率について正確に理解できるように指導する。また、新聞の折り込み広告などを活用して問題をつくり、お互いに解いたり、同じ商品の割引後の値段の比較をしたりして、実生活に結びつけた問題を解くことで割合の意味を定着させ、習熟を図る。